

ともづな

www.masaru-knet

第47号

045-781-9580

発行 自由民主党 横浜市議員団
編集 黒川まさる 政務調査事務所

金沢ハイテクセンターの
今後に注目しています。

昨年の台風・コロナ禍に対する経済対策を通じて コロナ後の新たな横浜を創る

昨年度の横浜市の決算を審査する決算特別委員会で、黒川勝市議は、経済局・港湾局に対して質疑を行いました。昨年は、台風15号が金沢区を直撃するなど、風水害が猛威を振るいました。それらの検証をしっかりと確認するとともにコロナ後の横浜経済や観光資源としてのミナトの活性化などについての質疑を行い、両局から前向きな答弁を引き出すことが出来ました。以下はその要約です。

台風15号被害企業への 支援からコロナ対策融資

Q: 昨年の台風15号では、福浦・幸浦の産業団地が大きな被害を受けたが、直後に当時の菅官房長官が現地を視察後、横浜市・神奈川県・政府がしっかり連携して、被災企業支援策が実行された。信用保証料や利子補給を助成した融資の実績と被害に対する復旧の支援補助金の実績はどうなっているか。
A: 昨年の台風15号関連の融資は732件・約154億円、保証料助成は5.7億円、利子補給は現状で3017万円となっている。



菅官房長官の視察で支援策が一致にまとまりました。

Q: 設備や備品、保有車両などの被害も甚大だったが、被害金額に対する補助金の実績はどうか。

A: 232件・28.2億円となった。

Q: 申請書類が多くて、横浜市・神奈川県・金融機関でたらい回しされることもある。という地元の声を伝えると、すぐに連携・対応・解決してくれた。この経験を今回のコロナ対策に活かして欲しい。

A: 必要書類の可能な限りの削減、押印の廃止、代行申請やオンライン申請、事前エントリーなど昨年の経験が活かされて煩雑な対応や三密状態の防止に役立っている。

意見: コロナ融資は5千億円の横浜市の支援枠がまだ3割ほど残っている。脆弱な中小企業の実情を常にタイムリーにとらえ、寄り添った対応をして欲しい。

金沢臨海部の活性化 に必要な投資を

Q: 金沢臨海部の工業団地各社の出資によって設置した金沢産業振興センターはIDEC横浜の保有だが、完成後40年以上が経ち老朽化している。地域へのアンケートも行ったようだが、地域に必要とされる施設として活用されるよう、しっかり検討・実施して欲しい。

A: 地域のニーズを捉えつつ、民間による投資なども視野に、引き続き活用方法を検討していく。



IDEC横浜: 横浜市企業支援財団
YOXOBOX: 横浜市が関内に作った共同オフィス

Q: 金沢ハイテクセンターも竣工後30年となる令和5年になるとIDEC横浜が買い取る契約になっているが、安い賃料で若い経営者がスタートアップできるような企業の集積の仕組みを作るべきだ。AOZORA FACTORY や横浜シーサイドフォーラムなど、区内の若い経営者を支援し、大手や外資など様々な企業や大学・研究機関とも連携したネットワークを作り、横浜経済の活性化に活かすべきだ。
A: 金沢区臨海部は、市内有数の産業集積で、近隣の観光商業施設も含め発信力が高い。若手経営者と新しい起業家や研究機関、大学との連携、並木地区からの雇用の創出などにも期待している。

新たな起業家の創出と コロナ後の海外展開支援

経済局に対しては『横浜型地域貢献企業の認定制度』の認定制度の有料化や、5年ごとの更新とした改革による効果について、各局で取り組んでいる様々な認証制度の連携、コロナ後を見据えたりモートの活用による海外展開支援や、YOXOBOXを通じた若い起業家のネットワークの構築などについても質疑を行いました。

新しい30分の賑わいを創出するために



災害対策護岸と景観整備の両立をしっかりと進めます。

経済局に続いて港湾局に対しても台風関連から質疑に入りました。

福浦・幸浦地区の護岸復旧工事の進捗

Q：昨年の台風15号の被害からの復旧に、国からの予算も含めて112億円が投じられて工事が行われ、約一年間で総延長2.4km、高さ3mの護岸や消波ブロックが設置された。工事の概要、進捗、今後の台風襲来時の対応についてはどう考えているのか。

A：高さ3mの護岸の前方に消波ブロックを積み上げ、福浦地区ではその先にも防波堤を築いた。伊勢湾台風以上の想定する最大の高波にも耐える護岸になった。今後は消波ブロックの上を被覆コンクリートで覆い、護岸の内側の松林と道路の間にも高さ1m程度の第三防波堤を設置する。台風襲来時に海に近づくのは危険なので5か所に監視用ライブカメラを設置し、普段の防犯対策にも役立つ。



3重の防波堤で高波・高潮対策は万全です。

Q：大きな岸壁で海の景色が楽しめなくなった、釣りができなくなったとの声も聞いているが、憩いの場、レクリエーションの場として活用すべきではないのか。

A：第二護岸から縦型の消波ブロックの部分には出られる場所をいくつか設け、第一護岸との間を遊歩道や海釣り施設として開放するよう計画している。松林の中にも公衆トイレや駐車場のスペースを作り賑わいや憩いの場を創出する。

わずか一年でのスピード整備は国・県・市の連携の成果です。



金沢・柴の漁港にも新たな展開を求める

Q：金沢区の金沢漁港・柴漁港では、地域みなさんに漁港や漁業のことをもっと知ってもらおうと、地域との交流イベントや、海産物の直売、穴子天丼などの食堂を週末に開いて、市民に対して漁港への理解を深めてもらっている。横浜市では中期四か年計画に「豊かな海づくり」を掲げ、生物共生護岸の整備や漁港施設の改修を進めているが、その狙い・工事内容・直売所や飲食スペースの再整備の考え方はどうなっているのか。

A：市民の漁港や漁業、生物多様性などに対する関心は高まっている。海と市民が触れ合う施設として、老朽化した漁港施設の改修を進めるとともに、照明設備やバリアフリー化、直売所や飲食スペースも令和4年度の着工予定で順次進めていき、市民に開かれた都市型の漁港として整備を進める。



直売所や天丼屋さんも広くきれいになります。

Q：観光資源という面からも漁港の活性化は進めて欲しいが、ヨットやウィンドサーフィン、カヌーやSUPなどのマリレジャーとの共存や安全対策も港湾管理者として怠らないで欲しい。

A：安全のためのガイドラインの策定や協議会などのコーディネート役を務めるとともに、ベイサイドマリナーや八景島、海の公園などとともに観光開発にも取り組み、市内でも貴重なコト消費としての観光拠点化を進めていく。

都心臨海部における新たな展開と提案



都心臨海部の再開発も最終段階です。

Q：インターコンチネンタルホテルの先端から新港埠頭地区に抜ける歩行者専用の女神橋は、黒川が観光船事業者から受けた要望もあって嵩上げされたが、開通すると臨港パークから新港埠頭・赤レンガ倉庫・山下公園・山下埠頭まで、自動車も信号も気にせずに海風を感じながらジョギングが楽しめるコースが出来る。臨海部のホテルに泊まっている旅行者や海外からのビジネスマンにも喜んでもらえると思うが検討すべきだ。

A：要望書によって観光ニーズもわかり、女神橋は嵩上げも含めて国費も活用して年内に完成する予定。ランニングコースとしてのスタートゴールやキロ表示を実施して横浜を訪れる人の良い思い出にしてもらいたい。臨港パークにはランニングステーションも出来ることになっている。

そのほか、港湾局に対しては臨港パークの未着工の部分の早期着工と、臨海部の緑地を活用したスケートボードなどの練習施設の整備、山下埠頭の暫定利用としての『動くガンダム』について質疑を行いました。『動くガンダム』は12月19日から令和4年3月までの予定で公開されます。



飲食施設や限定プラモなどのショップも充実した施設となります。

不妊治療に対する支援は政府とともに

昨年、子宮がん患者の妊娠・出産について視察した『みなとみらい夢クリニック』を三原じゅん子厚生労働副大臣が厚労省の幹部とともに視察をするとのことで、黒川市議は、がん撲滅議員連盟の事務局長として田野井会長とともに同行し、視察・意見交換・記者会見をしました。

不妊治療には、一定の基準がなく料金設定も治療の効果も様々です。課題もありますが、政府とともに速やかな保険適用に向けた調査・研究を引き続き進めてまいります。



新しい参考人招致の手法を委員長として実現！

横浜市会の建築都市整備道路常任委員会の委員長を務める黒川勝市議は、新しくなった議会での新しい試みとして、従来の枠組みにとらわれない常任委員会での参考人招致に挑戦しました。

常任委員会における専門的知見の聞き取りの場として参考人招致という仕組みがあります。その言葉自体がいかに議会用語なのですが、国会のようにスキャンダルを暴くような場ではなく、あくまでも議員が知識を深める機会として大学教授や研究者を単独で招き、説明を伺っていました。



5人もの参考人が並びのは横浜市会では初めてです。

黒川市議は、オリンピックイヤーでもあった2020年は様々な施設がオープンし、新たな計画が明らかになった年でもあり、これからの横浜の都心部の活性化の担い手である企業人から話を聞く場

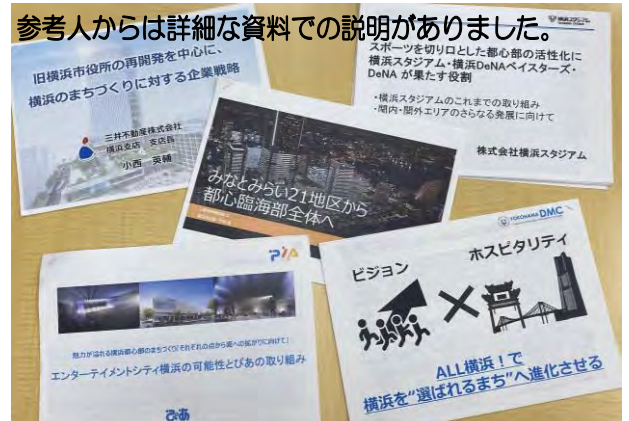
インバウンド：外国人入国者 MICE：Meeting Incentive Convention Eventの略が大切だと考え、新しい議会の広くなった委員会室のレイアウトを議会局と調整し、5人の参考人を横浜市会に招いて話を伺う場を設けることとしました。

委員会の冒頭、黒川委員長から、現在はコロナ禍で壊滅的なインバウンドや観光MICEだが、アフター&ウィズコロナの時代に向けて、まちづくりの最前線で活躍する人々から横浜の魅力や横浜の将来性について伺い、今後の横浜都心部のまちづくりを共に考える機会としたいとの挨拶があり、小池都市整備局長から横浜都心部のまちづくりの概要説明がありました。

三井不動産株式会社の小西横浜支店長は、旧市庁舎の再開発ビルを中心とする関内地区を、ライブ感と回遊性のある地域にと話してくれました。三菱地所株式会社の竹田横浜支店長は、新たなワークスタイルとライフスタイルを示し、都心臨海部全体でイノベーションを実現し続ける都市

横浜を実現しようとの話でした。横浜スタジアム株式会社の藤井社長は、野球開催日以外でも賑わいのあるスタジアム周辺や関内・関外地区のために垣根を取り払って取り組む。ぴあ株式会社の染谷執行役員は横浜都心部の音楽ホールやライブ会場の集積は日本一、ぴあアリーナだけでなく施設の横の繋がりで横浜の音楽シーンを盛り上げたい。横浜DMCの山村社長は横浜都心部をゆるやかな集合体と捉え、横浜でしかできない体験消費を創り出そうとの話でした。

活発な質疑もあり、連携・繋がり・ネットワーク、みんなで横浜の顔を創っていこうという機運が高まる機会になりました。



参考人からは詳細な資料での説明がありました。

大阪都構想に反対し、ふたたび大阪へ！



全国の政令市の議員が集結し、それぞれの言葉で大阪都構想反対を訴えました。



4年前に続いて2度目の大阪都構想住民投票の反対行動に、投票日の前日に多くの政令市の仲間とともに大阪に行ってきました。

今回の住民投票の正式名称は「大阪市を廃止して4つの特別区を設置する住民投票」、報道では「大阪都構想の賛否を問う住民投票」、法律上大阪都ができることは

ないのに報道は恣意的に煽ります。結果は今回も僅差で大阪市は存続することになりました。現地での反応は「ようわからんけど大阪がなくなったら困るんちゃう。」という意見が大半だった気がします。こういった重要な政策は議会ですっかり掘り下げて議論する必要性を強く感じました。



超高齢化時代の地域交通システムとは

坂の多い富岡見台地区では、京急電鉄、日産自動車、横浜国大、横浜市都市整備局などによる、カートやワゴン車での地域交通システムの実証実験が行われました。スマホのアプリや専用カードで登録するとルート上で自由に乗り降りできる仕組みです。自民党の有志議員の仲間とともに試乗しましたが、採算よりも地域の価値を下げないための取り組みという説明には複雑な思いもします。



丘の上の住宅街の高齢化は各区分済の課題です。

いざという時のために備える

シーサイドラインの金沢八景駅ではテロ対策の防災訓練が、杉田中学校では横浜市総合防災訓練が続けて開催されました。コロナ禍の下での訓練でしたが消防局、消防団、警察、自衛隊、病院関係者などが協力し合っただけの訓練は、いざという時のために必要です。モバイルファーマシーでの薬の提供や感染症対策の徹底は参考になりました。



モバイルファーマシーが災害時には活躍します。

消防隊員の空色のウェアは感染症対策の防護服です。

コロナと向き合うイベントのカタチ

金沢文庫では「すずらん通り商店街ウェルカムフェア」が、金沢区役所前の芝生の広場では臨海部のものづくり企業のみなさんによる「AOZORA FACTORY」が秋空の下で開催されました。コロナ対策もしっかり行いながら多くの家族連れなどが参加していました。子育て支援団体の代表の人が実は旧知の人だったり、飲食店の出店依頼の陳情をいただいたり、地元出身のお笑い芸人さんと触れ合えたりと、コロナには注意しつつも、やっぱり人々との交わりも大切だと感じました。



地元大学生と企業との交流の場でもあります。

横浜ココハマ・ポニカロードなど地元の芸人やアイドルが人気です。

菅義偉内閣総理大臣のサプライズ

第15回マニフェスト大賞は、式典は六本木ヒルズで、受賞者はそれぞれの地元というハイブリッド開催となりました。私が白井実行委員長から課せられたミッションは菅総理からビデオでの祝辞をいただくことでしたが、バイデン米国大統領予定者との電話会談の後、前日の午後には官邸で撮影が行われ、式典で祝辞を披露することが出来てみなさんに喜ばれました。



受賞者の政策の内容がよく分かるリモートによる開催も好評でした。

横浜市会議員時代のエピソードを交えた菅総理大臣のビデオレターでした。

市民に開かれた、わかりやすい政治を目指す、黒川まさる横浜市議員に対する期待、要望、激励、メッセージなどをお寄せください。

.....

.....

.....

いただいた連絡先はお返事をさせていただきます以外には使用いたしません。

お名前・ご連絡先

返信FAX 045-786-4310 または masaru-k.net@hb.tp1.jp